

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立島根小学校）

平成30年9月25日

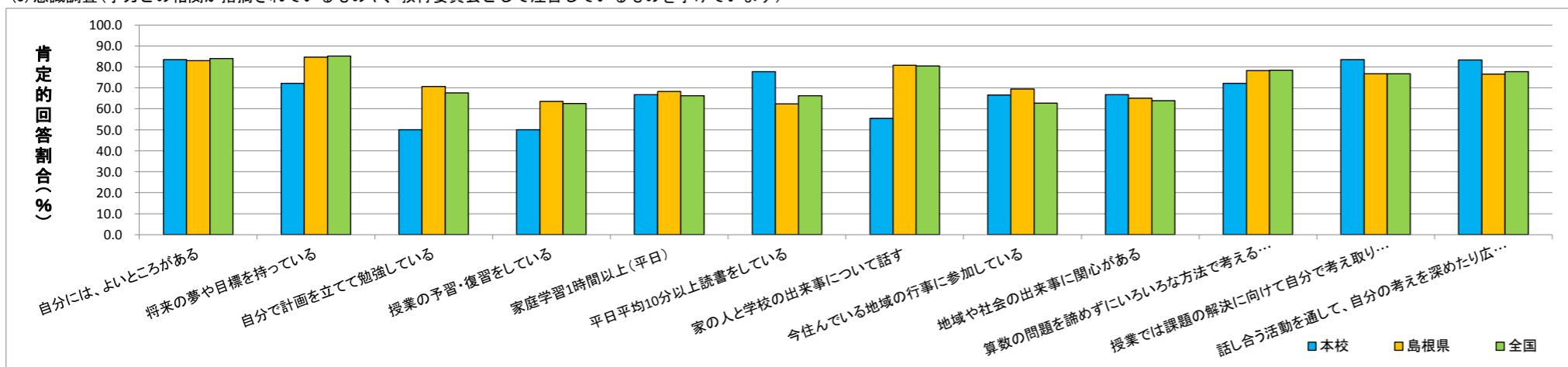
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策
国語	A (基礎)	○漢字と語句の知識は身についている。 ●主語と述語の関係を正しく書くことが苦手である。	・主語と述語を意識しながら、話したり書いたりできるとともに、自分の書いた文や文章を推敲する学習を増やす。
	B (活用)	○互いの立場や意図をはっきりさせて話し合うことができる。 ●複数の文章から必要な情報をまとめて書くことに慣れていない。	・複数の文章から目的に合わせて必要な情報を見つけ、それらを関係づけて、相手にわかりやすい文章を書く活動を取り入れる。
算数	A (基礎)	○単位量あたり、角度、グラフなどの、計算以外の内容に定着が見られる。 ●小数の扱い方や、円周と面積の公式を使った演算決定に混亂が見られる。	・小数の意味と、乗除の計算結果の大小の違いについて再確認する。 ・円の学習を進めるに当たって、作業的・体験的な活動を通して、直径と円周の長さの関係について理解させるようにする。
	B (活用)	○手順に従って解いていく問題は正しくできる。 ●複数の情報から正しいものを読み取って使うことが苦手である。	・日常生活においても、複数の情報を解釈し関連付けて論理的に考察する活動を増やす。
理科		○題意の把握ができ、最後まで解こうという意欲が見られる。 ●複数の資料を関係付けて総合的に判断することが苦手である。	・学習したことを生活や自然の中で適用して考えたり、活用したりする学習を取り入れたり、意識付けを図ったりする。 ・児童に問題意識や結果の見通しを持たせ、その結果からより妥当な考えに改善できるような学習の流れを作る。

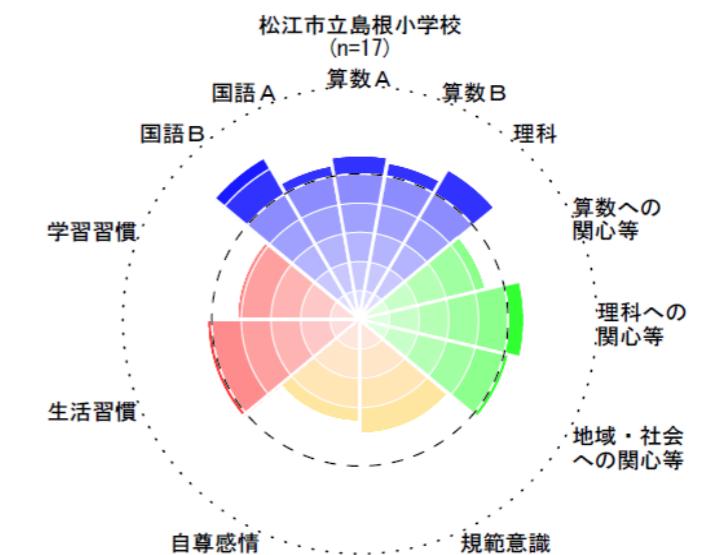
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)		対策
○家庭との結びつきは強くはないが、地域の活動には参加していて結びつきはある。 ○読書は、学校での読書タイムや、隙間時間に読む姿が見られる。 ●スポーツに入っている児童の割合が高く、放課後や土日に多くの時間を使っており、家庭学習に時間を割いていない。 ●算数に対して苦手意識が強い。		・児童が「自分はできる」という気持ちが持てるような手立てを講じる。 ・正しい答えが出たら終わりということではなく、いろいろな解き方を考えさせたり、課題を解決したときの達成感を味わったりさせるなど、思考する楽しさを味わわせるような手立てを講じる。 ・学習したことが、総合的な学習や日常生活で生かせることを体験させ、学習の有用感に気づかせる。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・放課後「ぐんぐんタイム」で、学力補充をする。(担任を中心に管理職を含めた複数体制で指導をする。) ・家庭学習や家族で話し合う時間を増やすよう、課題を工夫したり働きかけを行ったりする。

【参考】

○平均正答率

	本校	松江市	島根県	全国
国語	A	73	70	68
	B	66	57	55
算数	A	68	62	61
	B	55	50	49
理科	67	59	58	60.3

受検者数 17人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受験者数をもって表示しています。